

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科											
音楽基礎 4											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	大野元毅			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
学生が音楽を学ぶ際、また実務に携わる際に必須となる音楽理論を学ぶ。音楽の形態が多種多様化する現在においても楽譜での伝達は不変であり、楽器や作曲技術を習得する際に必要不可欠なものである。また実務上においてもスムーズな楽譜上での意思の疎通が正しく行われないと業務に支障をきたすことになる。楽譜を理解することは音楽を理解することと同義であり、また音楽家同士がコミュニケーションするための言語である。											
到達目標											
西洋音楽の要となるメジャーとマイナーにおける調性と和声の仕組みをしっかりと把握し、必要な場面で活用することができる。音楽の三要素であるリズム・コード・メロディの持つ意味をしっかりと把握し、楽器演奏、作曲技術など自己の専門技術に生かすことができることを目標とする。											
授業方法											
音楽家同士のコミュニケーションツールとしての理論、（読み書き、ルール等）調性、和声の機能を1年次の復習を交えながら進行し、実際の場面で応用できるよう練習問題を多く取り入れて進行していく。黒板へ板書及び適宜資料を配布する。その他適宜音資料も使用する。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内小テスト20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。理由のない途中退席は認めない。理論は時として高度な内容を含むので各自予習復習に励むこと。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	前期の復習										
第2回	セカンダリー・ドミナント応用。ツーファイブの形で様々な調へ転調できるようになる。										
第3回	セカンダリー・ドミナント応用。代理コードを含むツーファイブの使用方法について把握できる。										

2020年度 日本工学院八王子専門学校	
ミュージックアーティスト科	
音楽基礎 4	
第4回	ツーファイブの応用。楽曲の中で様々な形で現れるツーファイブの形をアナライズすることができる。
第5回	転回型について。転回型について把握し、響きの違いを理解できる。
第6回	転回型について。前後のコードの繋がりですさわしい転回型を選択できる。
第7回	分数コードについて。分数コードの記譜ルールと仕組みについて理解できる。
第8回	分数コードについて。分数コードの響きを理解すると同時に楽曲に応用出来るようになる。
第9回	テンションについて。テンションコードの仕組みを理解できる。
第10回	テンションについて。ナチュラルテンションとオルタードテンションを理解し、使用方法がわかる。
第11回	チャーチモードについて。チャーチモードを把握し、概念がわかる。
第12回	チャーチモードについて・その2。それぞれのチャーチモードの特徴を把握し、適切に使用できる。。
第13回	ドミナントスケールについて。様々なドミナントスケールのそれぞれの違いを理解し、適切に使用できる。
第14回	ドミナントスケールについて・その2。様々なドミナントスケールのそれぞれの違いを理解し、適切に使用できる。
第15回	まとめと復習